

新生美術館基本設計について

現在、整備を進めている新生美術館（県立近代美術館の改修・増築工事をはじめとした再整備計画）について、平成 27 年 3 月、（有）S A N A A 事務所と設計業務委託契約を締結し、設計業務を進めており、このたび、平成 28 年 5 月に基本設計をとりまとめました。

1 基本的な考え方

- 新生美術館基本計画（平成 25 年 12 月策定）に沿って、「神と仏の美」、「近代・現代美術」、「アール・ブリュット」を柱とし、
 - ① 指定文化財が保管・展示できる文化庁の公開承認施設として承認されること
 - ② 新たな時代にふさわしい、魅力的な場にする
 - ③ 「開かれた美術館」として多くの県民や地域とつながることを、設計にあたっての基本的な考え方とすること。
- さらに、公募型プロポーザルで設計者が提案した、分棟型の回遊式庭園美術館のコンセプトを踏まえること。
- その上で、予定工事費は美術館既存館改修と増築 47 億円、公園改修 5 億円でとりまとめた。

2 基本設計の内容

（詳細は別添資料参照）

- ① **琵琶湖文化館の機能を継承して、仏教美術等の保存・展示に必要な整備を行う**
 - ・ 「神と仏の美」をテーマとした常設展示を行う「展示室 1」の整備
 - ・ 仏教美術等の大型作品に対応するガラスケースを備えた「展示室 7」の新設
 - ・ 仏教美術等を保管する「収蔵庫 5」の新設
 - ・ 全ての展示室・収蔵庫に不活性ガス消火設備を整備
- ② **美術館のコレクションを活かすとともに、新しい展示手法に対応するために展示室を充実する**
 - ・ 館のコレクションを代表する小倉遊亀作品の常設展示を行う「展示室 2」の整備
 - ・ 新たに収集を行うアール・ブリュットの魅力を伝える常設展示を行う「展示室 3」の整備
 - ・ コレクション展示の充実や企画展の大規模化等に対応した「展示室 5」の新設
 - ・ 芸術表現の新たな潮流や多様化に対応した天井高の高い「展示室 6」の新設
- ③ **多くの県民が美術館での体験や活動を一層楽しめる機能を充実する**
 - ・ 子どもが美術の魅力に出会える「キッズスペース」の新設
 - ・ 公園の風景とともに食事を楽しめる「レストラン」の新設
 - ・ 利用者・作家が創作活動を行う「創作室」や「エントランス広場」の整備
 - ・ 県民・利用者が交流・活動できる「協働室」や「情報交流室」の整備
 - ・ 県民・団体の創作活動の発表の場として、「ギャラリー」を充実

④ 美術館と一体的に公園の整備も行い、アクセスの利便性を向上する

- ・ 池側（北側）にもエントランスを新設し、バス停や北・西駐車場方面からのアクセスを改善
- ・ 北駐車場横にバスロータリーを設け、バス乗降場を設置
- ・ 駐車場の改善（西駐車場収容台数増加、北駐車場と西駐車場を結ぶ連絡通路（車道）の新設）
- ・ 園路（歩道）のバリアフリー化

3 今後のスケジュール（予定）

時 期	項 目
平成 28 年 6 月	建築実施設計着手
平成 29 年 1 月	建築実施設計完了
平成 29 年 4 月	県立近代美術館休館
平成 29 年 10 月	建築工事着工
平成 31 年 11 月	建築工事完了
平成 32 年 3 月	新生美術館開館

滋賀県立近代美術館増築その他工事設計業務委託 基本設計



□計画の理念

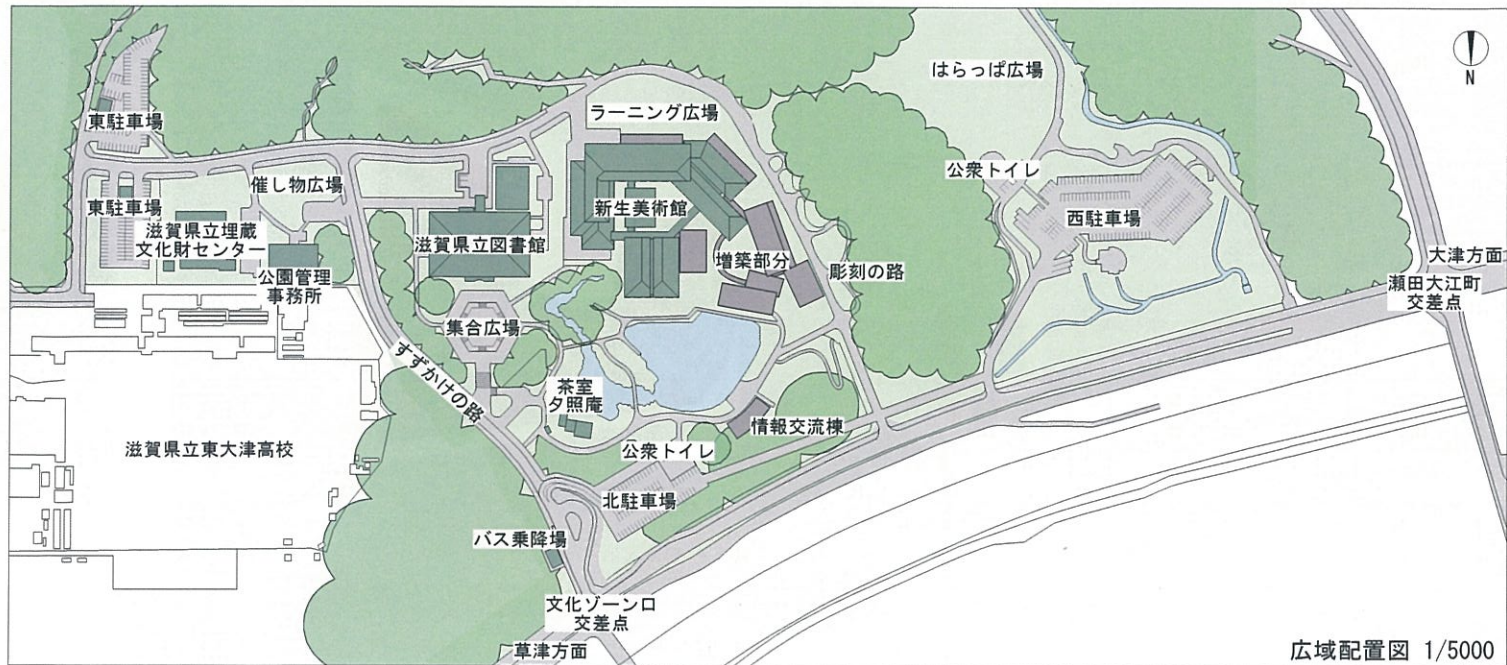
- 過去から現在までの、滋賀の文化や地域の魅力を発信し、県民の財産として将来に引き継ぐための「美の滋賀」の拠点を創出します。
- びわこ文化公園全体を美術館とみなし、公園の改修・機能向上と美術館施設整備を一体的に実現します。

□計画の基本方針

- 周囲の自然環境との調和の中で、多くの県民や利用者が憧れを感じることができる、デザイン性を備えた空間を創出します。
- 多くの人が集える広場のような存在となるよう、子供や高齢者、障害のある人をはじめ、すべての人にとって居心地が良く、使い易い施設を目指します。
- 新生美術館として今後、長期的に果たすことができる必要な機能を確保するために、既存館の改修と新館の増設を計画します。

□建築設計のコンセプト～分棟型回遊式庭園美術館～

- 新生美術館は回遊式の既存美術館の特徴を継承し、増築部分や公園全体にその回遊体験を広げます。
- 池の対面に離れのように情報交流棟を配置し、散策路には外部アート展示を点在させ、公園を含んだひとつながりの新しい回遊式庭園美術館を目指します。
- 既存建物は各展示室、講堂の改修や兼用ギャラリーの併設を行い、外部に新たにラーニング広場を設けてワークショップスペースとしての利用など県民活動を充実させ、開かれた新しいイメージを創出します。
- 既存の建物と連続して、びわこ文化公園のゆるやかな傾斜の地形に沿った建物を計画します。
- 既存建物のプロポーショナルに合わせて増築を行い、新旧の建物が混ざり合うような外観をつくります。
- 美術館と公園が一体となって「美の滋賀」の拠点となるように計画します。



□建築概要

規模	地上2階、地下1階
建築面積	8,588㎡
延床面積	12,809㎡
最高高さ	11.325m
主体構造形式	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
基礎形式	杭基礎（場所打ちコンクリート杭）
施設構成	展示室7室、収蔵庫6室、ギャラリー1室、ギャラリー兼講堂1室 創作室1室、協働室1室、レストラン1室、情報交流室1室、ほか

総工費	約47億円（外構工事、設備改修費を含む）
-----	----------------------

□設計・工事スケジュール

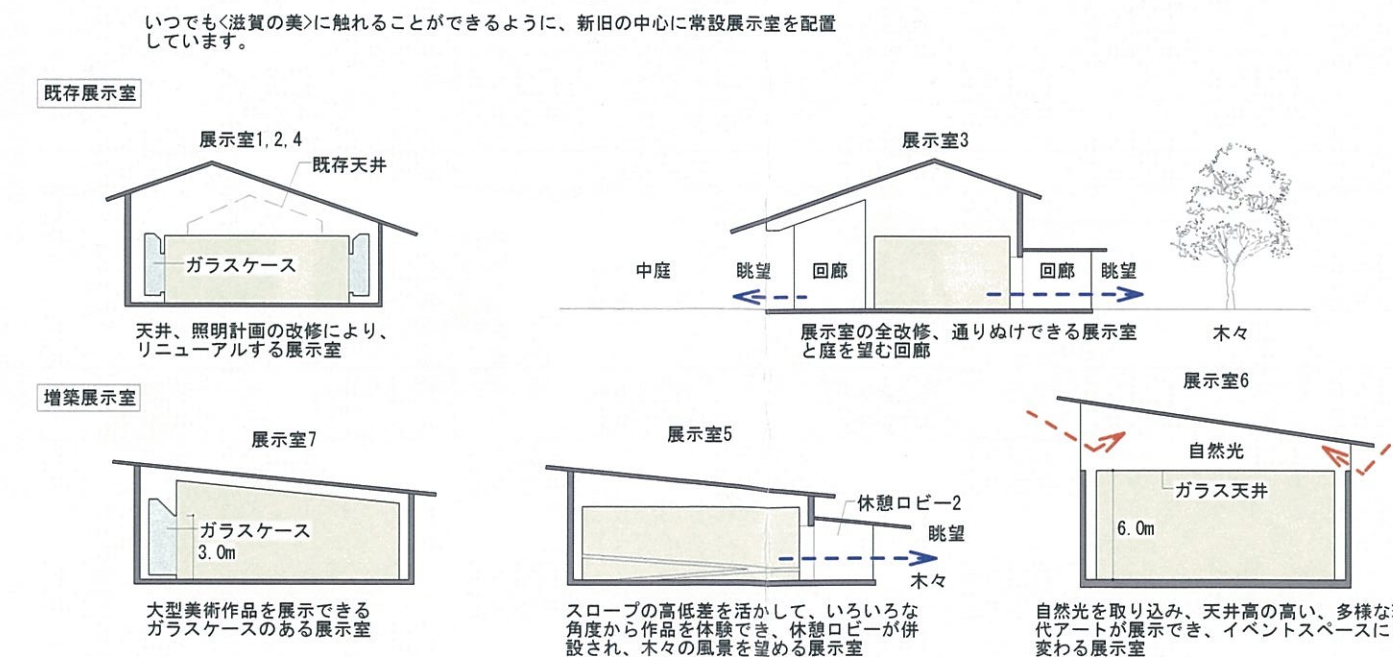
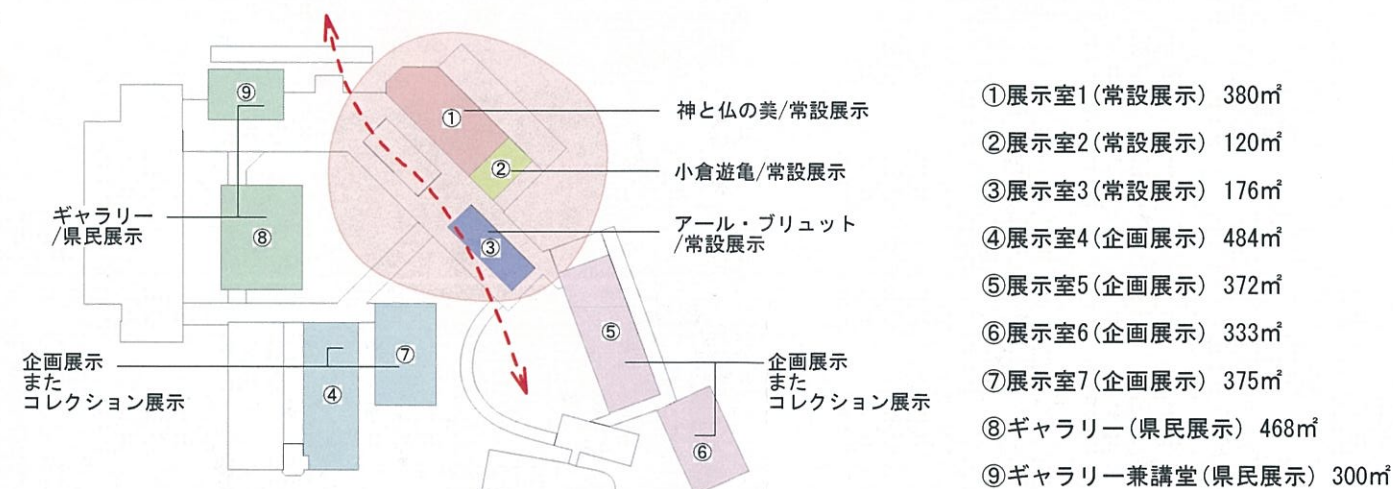
実施設計	平成28年6月～平成29年1月
工事着工予定	平成29年秋
竣工予定	平成31年秋
開館予定	平成32年春

□面積表

展示部門	常設展示室	676	2,708
	企画展示室	1,564	
	ギャラリー	468	
情報・交流 アメティ部門	ギャラリー兼講堂	300	1,205
	創作室	165	
	レストラン	150	
	ミュージアムショップ	50	
	情報交流室	50	
	協働室	95	
	キッズスペース	40	
	その他	355	
収蔵部門	収蔵庫	1,916	3,524
	その他	1,608	
調査 研究部門	資料室	100	224
	スタジオ	124	
管理 共用部門	管理諸室	742	5,148
	エレベーター・通路 機械室等	4,406	
床面積合計		12,809 (㎡)	

□「神と仏の美」「近代・現代美術」「アール・ブリュット」〈滋賀の美〉と多様な展示空間

- 新旧の美術館を連続した配置関係とし、新旧展示室が連携して利用できる美術館を計画します。
- 既存の回遊動線を拡張し、さらに新しい美術館の回遊動線を付加することによって、より多様な鑑賞動線を生み出します。
- 既存の展示空間の特徴を活かしつつ、新たに様々な展示空間を作ることによって多様な展示の体験を生み出します。





エントランスロビー2のイメージ

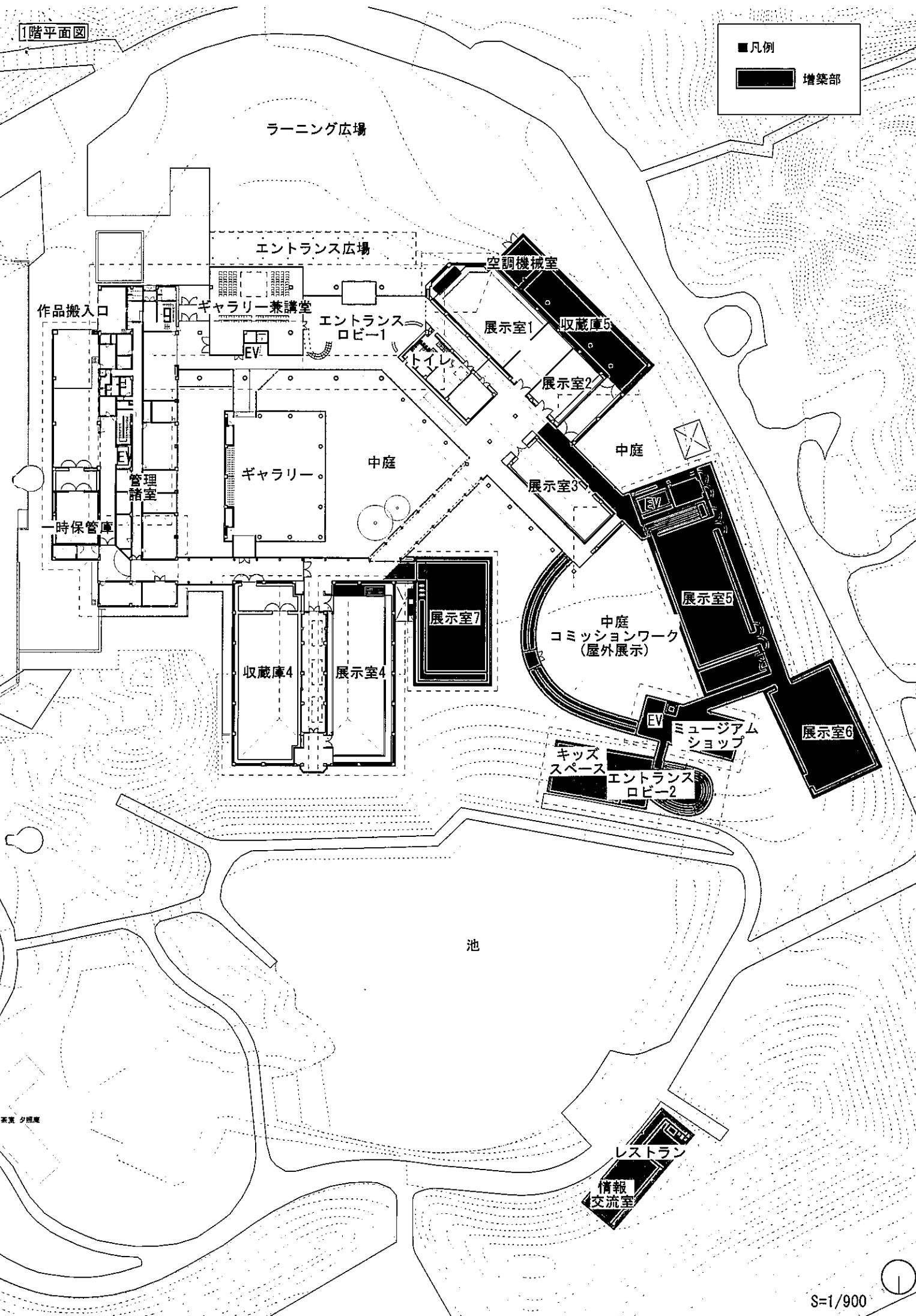


展示室7のイメージ

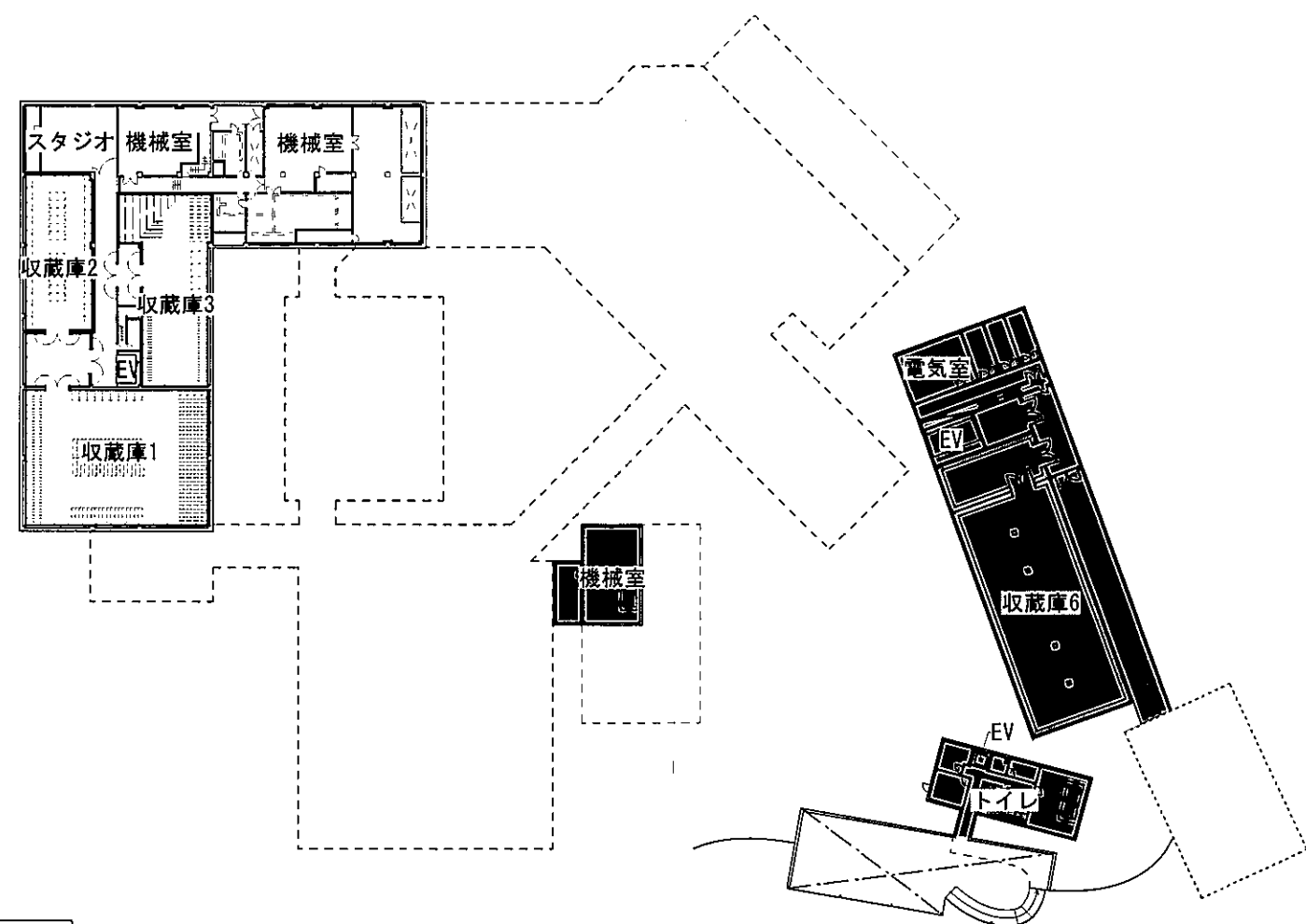


展示室5のイメージ

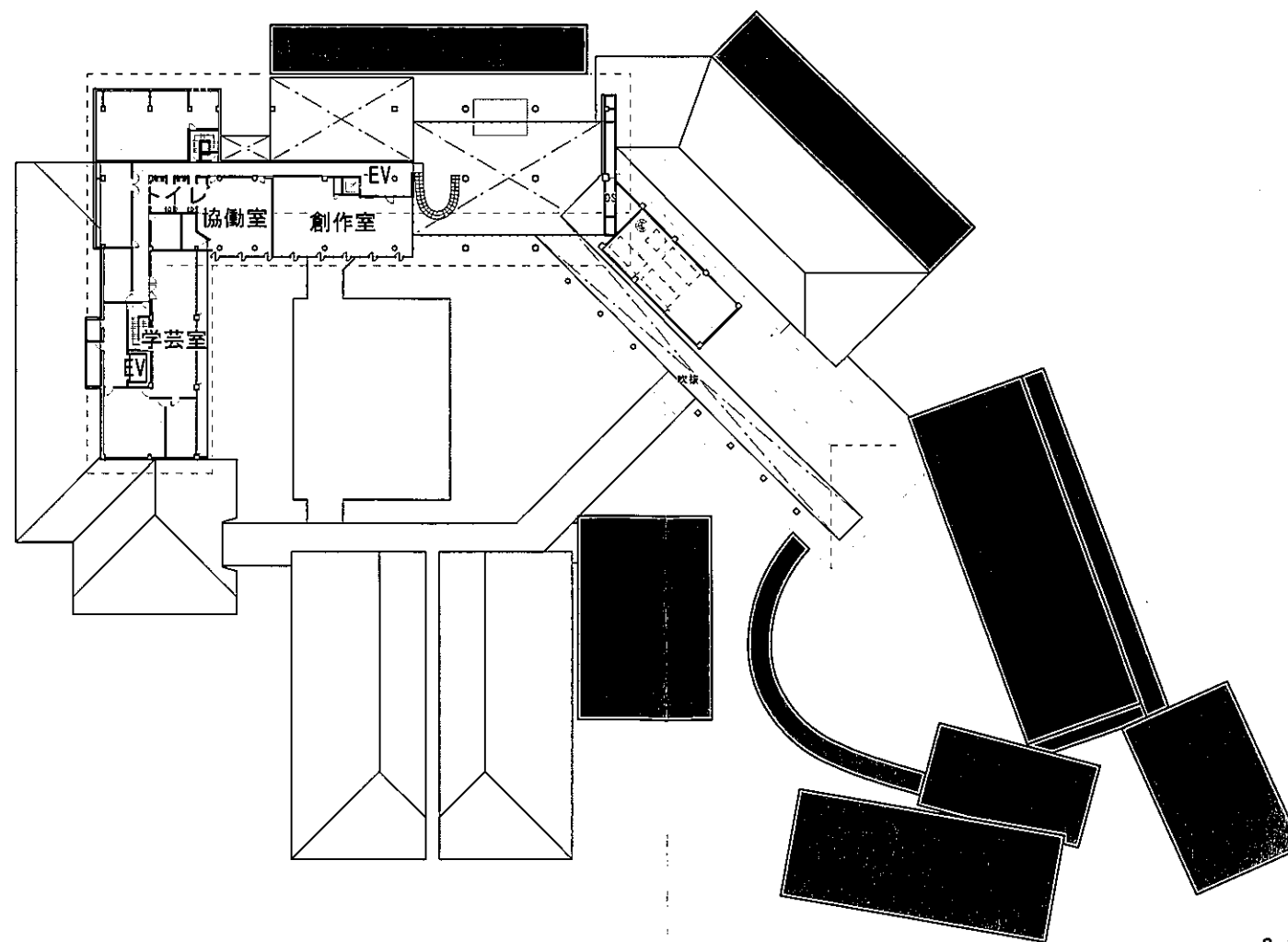
1階平面図



地下1階平面図



2階平面図

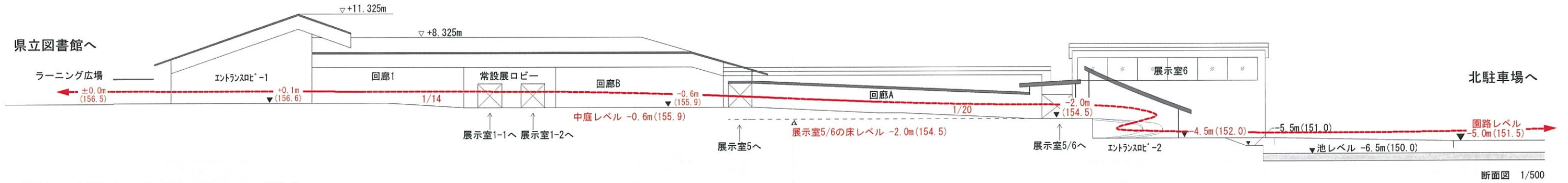


S=1/900

S=1/900

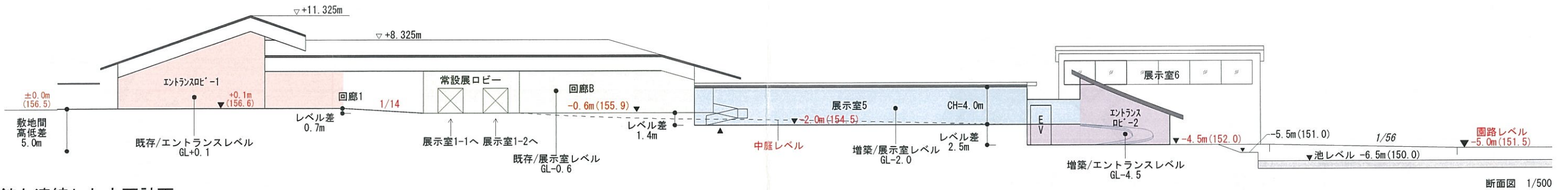
□地形沿った断面計画

敷地の高低差は北側と南側で約5mあります。その高低差を活かし、周辺環境を取り込んだ増築計画とします。緩やかに池レベルまで地形に沿いながら増築部分を作り、美術館の中に留まらず公園を巡るように全体の回遊性を持たせ、建物と公園を連続させた断面計画としています。



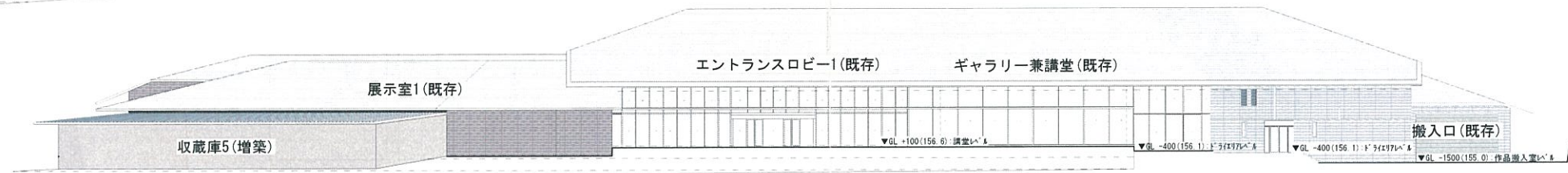
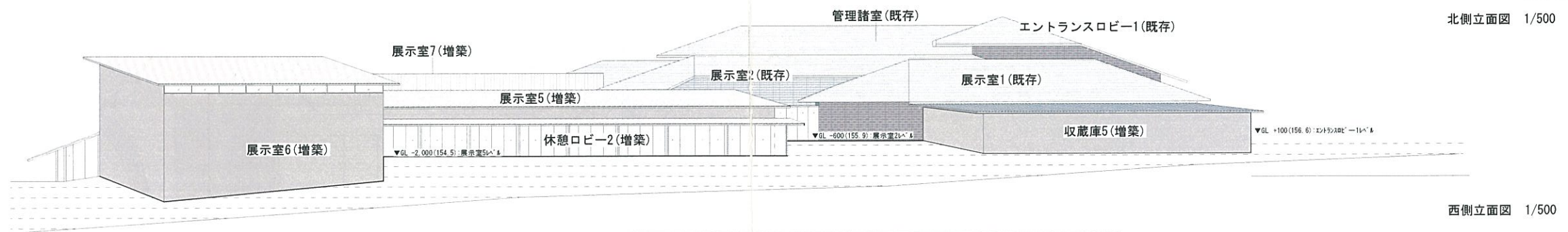
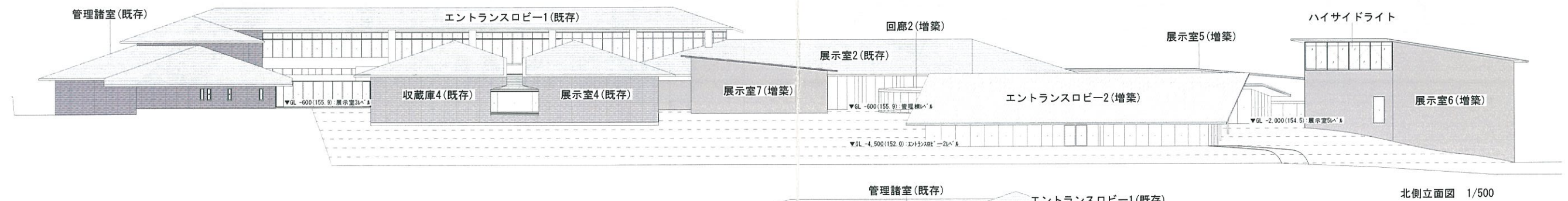
□既存と新館をつなぐ4つのフロア構成

既存の近代美術館の2つのレベル(GL=-0.1, GL=-0.6)に加えて、1.4m下がった位置(GL=-2.0)に新しい展示室5,6のレベルを計画し、さらに2.5m下がった位置(GL=-4.5)に新しいエントランスロビー2を計画しています。各レベル差間の移動は、ゆるやかな傾斜のスロープやEVを設置し、バリアフリーに配慮した計画としています。



□既存館と連続した立面計画

既存建物に合わせて、増築部分も勾配屋根を採用し、新旧の建物が混ざり合うような立面計画としています。既存建物と一体となった立面は、新生美術館の新しいイメージを創出します。周辺の池や中庭や園路に向かって軒面を出すことで、様々な方向に建物の表情を作り、周辺環境に溶け込んだ外観を計画します。



びわこ文化公園平面図

